

集落支援員について

総務省 地域力創造グループ 過疎対策室

集落支援員について

集落支援員

地域の実情に詳しく、集落対策の推進に関してノウハウ・知見を有した人材が、地方自治体からの委嘱を受け、市町村職員と連携し、集落への「目配り」として集落の巡回、状況把握等を実施

- ・地方自治体⇒集落支援員を設置し、集落支援員と協力して集落対策を推進
- ・総務省⇒地方自治体に対して、財源手当(支援員一人あたり350万円(他の業務との兼任の場合一人あたり40万円)を上限に特別交付税措置)、情報提供等により支援

※特別交付税の対象経費・・・集落支援員の設置に要する経費・集落点検の実施に要する経費・集落における話し合いの実施に要する経費

※この対策は、過疎地域に所在する集落や、高齢者比率が一定以上の集落など特定の集落に限定していない。(参考)総務省通知(平成20年8月1日総行過第95号)

地方自治体の取組のフロー

■集落支援員の設置

- ・地方自治体の委嘱により「**集落支援員**」を設置。
- ・集落支援員は、市町村職員とも連携し、集落への「目配り」として、集落の巡回、状況把握等を行う。

集落支援員による支援

■集落点検の実施

- ・集落支援員は、市町村職員と協力し、住民とともに、**集落点検**を実施

※点検項目の例:「人口・世帯数の動向」、「通院・買物・共同作業の状況、農地の状況」、「地域資源、集落外との人の交流、Uターン、他集落との連携の状況」、など

■集落のあり方についての話し合い

- ・住民と住民、住民と市町村との間で集落の現状、課題、あるべき姿等についての**話し合い**を促進(「集落点検」の結果を活用)
- ・話し合いに当たり、実施時期・回数・参加者などを検討したり、集落支援員、市町村、住民や外部有識者の参加を求めるなど、行政との「話し合い」を実施

《 集落点検や話し合いを通じ必要と認められる施策 》

- ①デマンド交通システムなど地域交通の確保、②都市から地方への移住・交流の推進、③特産品を生かした地域おこし、④農山漁村教育交流、⑤高齢者見守りサービスの実施、⑥伝統文化継承、⑦集落の自主的活動への支援 等

積極的に実施

支援

総務省

集落支援員の配置状況①

精査中

- 集落支援員は全市町村で4,441人(専任1,167人、兼任3,274人)が配置されており、そのうち過疎市町村には3,307人(専任1,000人、兼任2,307人)が配置されている。
- 全市町村のうち、集落支援員を配置する市町村は284団体(うち過疎市町村222団体)である。
- 地方ブロック別に集落支援員の配置状況をみると、九州圏の1,496人が最も多い。また、専任と兼任の配置状況では、北海道と四国圏を除く全ての地方ブロックにおいて、兼任の方が多く配置されている。
- 地方ブロック別に集落支援員を配置する市町村数の割合をみると、中国圏が41.1%であり、最も多い。

過疎区分別配置状況

| | 人数 | | | | 市町村数 | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-----|-------|-----|-------|------|------|----|-------|-------|-------|
| | 合計 | | 専任 | 兼任 | 合計 | | 配置あり | 専任のみ | | 兼任のみ | | 両方配置 | 配置なし | | | | | |
| 過疎市町村 | 3,307 | 100.0% | 1,000 | 30.2% | 2,307 | 69.8% | 797 | 100.0% | 222 | 27.9% | 155 | 19.4% | 34 | 4.3% | 33 | 4.1% | 575 | 72.1% |
| 過疎 | 2,259 | 100.0% | 610 | 27.0% | 1,649 | 73.0% | 616 | 100.0% | 157 | 25.5% | 105 | 17.0% | 28 | 4.5% | 24 | 3.9% | 459 | 74.5% |
| みなし過疎 | 387 | 100.0% | 82 | 21.2% | 305 | 78.8% | 30 | 100.0% | 12 | 40.0% | 6 | 20.0% | 2 | 6.7% | 4 | 13.3% | 18 | 60.0% |
| 一部過疎 | 661 | 100.0% | 308 | 46.6% | 353 | 53.4% | 151 | 100.0% | 53 | 35.1% | 44 | 29.1% | 4 | 2.6% | 5 | 3.3% | 98 | 64.9% |
| 非過疎市町村 | 1,134 | 100.0% | 167 | 14.7% | 967 | 85.3% | 921 | 100.0% | 62 | 6.7% | 38 | 4.1% | 17 | 1.8% | 7 | 0.8% | 859 | 93.3% |
| 合計 | 4,441 | 100.0% | 1,167 | 26.3% | 3,274 | 73.7% | 1,718 | 100.0% | 284 | 16.5% | 193 | 11.2% | 51 | 3.0% | 40 | 2.3% | 1,434 | 83.5% |

地方ブロック別配置状況

※「兼任」・・・自治会長等を兼務する者

| | 人数 | | | | 市町村数 | | | | | | | |
|-----|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-----|-------|-------|-------|
| | 合計 | | 専任 | 兼任 | 合計 | | 配置あり | 配置なし | | | | |
| 北海道 | 52 | 100.0% | 34 | 65.4% | 18 | 34.6% | 179 | 100.0% | 16 | 8.9% | 163 | 91.1% |
| 東北圏 | 494 | 100.0% | 148 | 30.0% | 346 | 70.0% | 257 | 100.0% | 41 | 16.0% | 216 | 84.0% |
| 首都圏 | 188 | 100.0% | 68 | 36.2% | 120 | 63.8% | 320 | 100.0% | 12 | 3.8% | 308 | 96.3% |
| 北陸圏 | 187 | 100.0% | 15 | 8.0% | 172 | 92.0% | 51 | 100.0% | 9 | 17.6% | 42 | 82.4% |
| 中部圏 | 857 | 100.0% | 103 | 12.0% | 754 | 88.0% | 237 | 100.0% | 36 | 15.2% | 201 | 84.8% |
| 近畿圏 | 461 | 100.0% | 218 | 47.3% | 243 | 52.7% | 198 | 100.0% | 32 | 16.2% | 166 | 83.8% |
| 中国圏 | 532 | 100.0% | 285 | 53.6% | 247 | 46.4% | 107 | 100.0% | 44 | 41.1% | 63 | 58.9% |
| 四国圏 | 144 | 100.0% | 120 | 83.3% | 24 | 16.7% | 95 | 100.0% | 31 | 32.6% | 64 | 67.4% |
| 九州圏 | 1,496 | 100.0% | 170 | 11.4% | 1,326 | 88.6% | 233 | 100.0% | 59 | 25.3% | 174 | 74.7% |
| 沖縄県 | 30 | 100.0% | 6 | 20.0% | 24 | 80.0% | 41 | 100.0% | 4 | 9.8% | 37 | 90.2% |
| 合計 | 4,441 | 100.0% | 1,167 | 26.3% | 3,274 | 73.7% | 1,718 | 100.0% | 284 | 16.5% | 1,434 | 83.5% |

※平成28年度「集落支援員に関する調査」

集落支援員の配置状況②

精査中

- 市町村が集落支援員をどのような地域や形態で配置しているのかをみると、配置対象地域では、その他を除き、専任と兼任共に「支援員の配置を希望する集落」の割合が最も高く、次いで「集落の人口や世帯数が少ない集落」、「高齢化率の高い集落」の順になっている。
- 配置形態をみると、専任では、「複数の集落からなる地区(小学校、大字など)に1人ずつ配置」が44.6%であり、最も割合が高い。一方、兼任では、「1集落に1人ずつ配置」が49.5%であり、最も割合が高い。

配置対象地域

| | 合計 | | 専任 | | 兼任 | |
|-----------------------|-----|--------|-----|--------|----|--------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 高齢化率の高い集落 | 81 | 28.5% | 69 | 29.6% | 12 | 13.2% |
| 集落の人口や世帯数が少ない集落 | 88 | 31.0% | 72 | 30.9% | 16 | 17.6% |
| 支援員の配置を希望する集落 | 99 | 34.9% | 78 | 33.5% | 21 | 23.1% |
| 地域活性化のビジョン等が策定されている集落 | 38 | 13.4% | 30 | 12.9% | 8 | 8.8% |
| 過疎地域に指定されている区域にある集落 | 52 | 18.3% | 42 | 18.0% | 10 | 11.0% |
| 市町村合併前の旧町村部にある集落 | 34 | 12.0% | 24 | 10.3% | 10 | 11.0% |
| その他 | 128 | 45.1% | 83 | 35.6% | 45 | 49.5% |
| 無回答 | 7 | 2.5% | 3 | 1.3% | 4 | 4.4% |
| 配置のある市町村数 | 284 | 100.0% | 233 | 100.0% | 91 | 100.0% |

配置形態

| | 合計 | | 専任 | | 兼任 | |
|-------------------------------------|-----|--------|-----|--------|----|--------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 1集落に1人ずつ配置 | 78 | 27.5% | 33 | 14.2% | 45 | 49.5% |
| 複数の集落からなる地区(小学校、大字など)に1人ずつ配置 | 130 | 45.8% | 104 | 44.6% | 26 | 28.6% |
| 集落ごとの配置に加え統括的な役割を担う支援員をブロックごとに配置 | 19 | 6.7% | 15 | 6.4% | 4 | 4.4% |
| 市町村の地域担当職員や協力隊等の外部人材、民生委員等と組み合わせて配置 | 36 | 12.7% | 30 | 12.9% | 6 | 6.6% |
| その他 | 110 | 38.7% | 93 | 39.9% | 17 | 18.7% |
| 無回答 | 7 | 2.5% | 3 | 1.3% | 4 | 4.4% |
| 配置のある市町村数 | 284 | 100.0% | 233 | 100.0% | 91 | 100.0% |

※専任と兼任の両方を配置する市町村があるため、合計は配置のある市町村数と一致しない。

※設問が複数回答であるため、各項目の合計は一致しない。

集落支援員の配置状況③

精査中

- 行政との連携・協議体制をみると、専任では、「定期的な活動報告(日報、週報、月報)の提出」が83.7%であり、最も割合が高い。一方、兼任では、「全ての支援員が一堂に会する報告会の開催」が46.2%であり、最も割合が高い。

行政との連携・協議体制

| | 合 計 | | 専 任 | | 兼 任 | |
|-----------------------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|
| | 数 | 割合 | 数 | 割合 | 数 | 割合 |
| 定期的な活動報告(日報、週報、月報)の提出 | 235 | 82.7% | 195 | 83.7% | 40 | 44.0% |
| 行政職員の定期訪問による確認 | 67 | 23.6% | 52 | 22.3% | 15 | 16.5% |
| 全ての支援員が一堂に会する報告会の開催 | 113 | 39.8% | 71 | 30.5% | 42 | 46.2% |
| 電話かメールによる都度の連絡報告 | 100 | 35.2% | 73 | 31.3% | 27 | 29.7% |
| 特になし | 11 | 3.9% | 6 | 2.6% | 5 | 5.5% |
| 無回答 | 8 | 2.8% | 4 | 1.7% | 4 | 4.4% |
| 配置のある市町村数 | 284 | 100.0% | 233 | 100.0% | 91 | 100.0% |

※専任と兼任の両方を配置する市町村があるため、合計は配置のある市町村数と一致しない。

※設問が複数回答であるため、各項目の合計は一致しない。

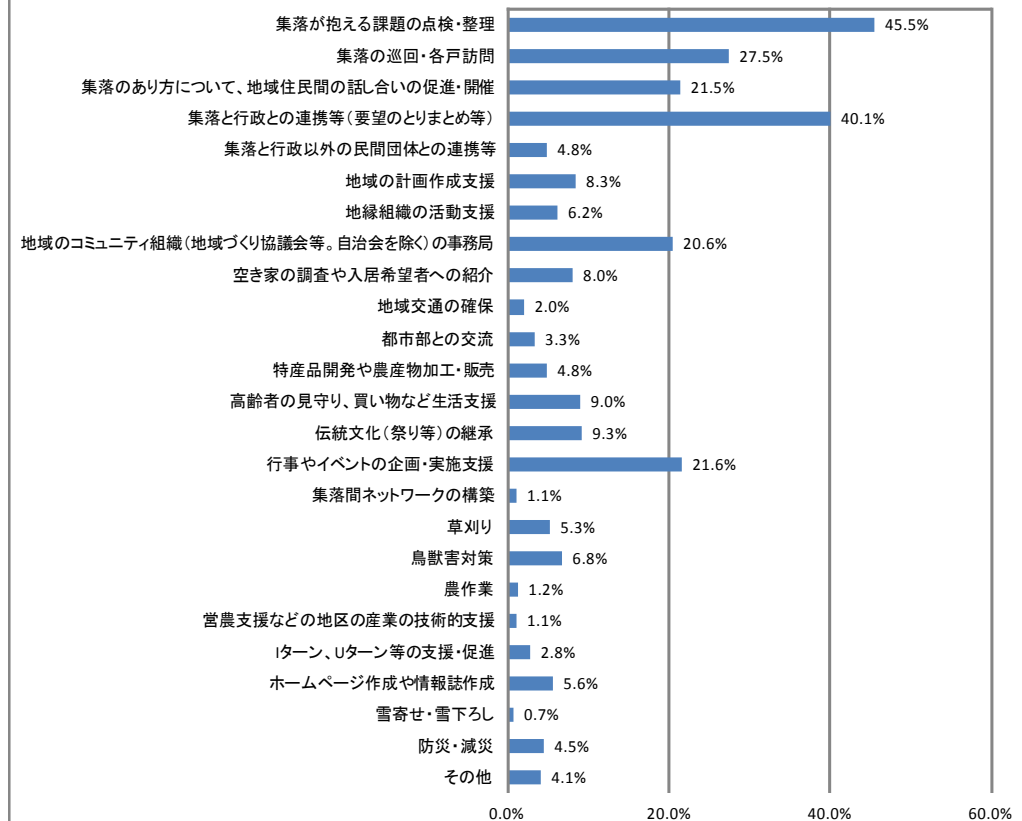
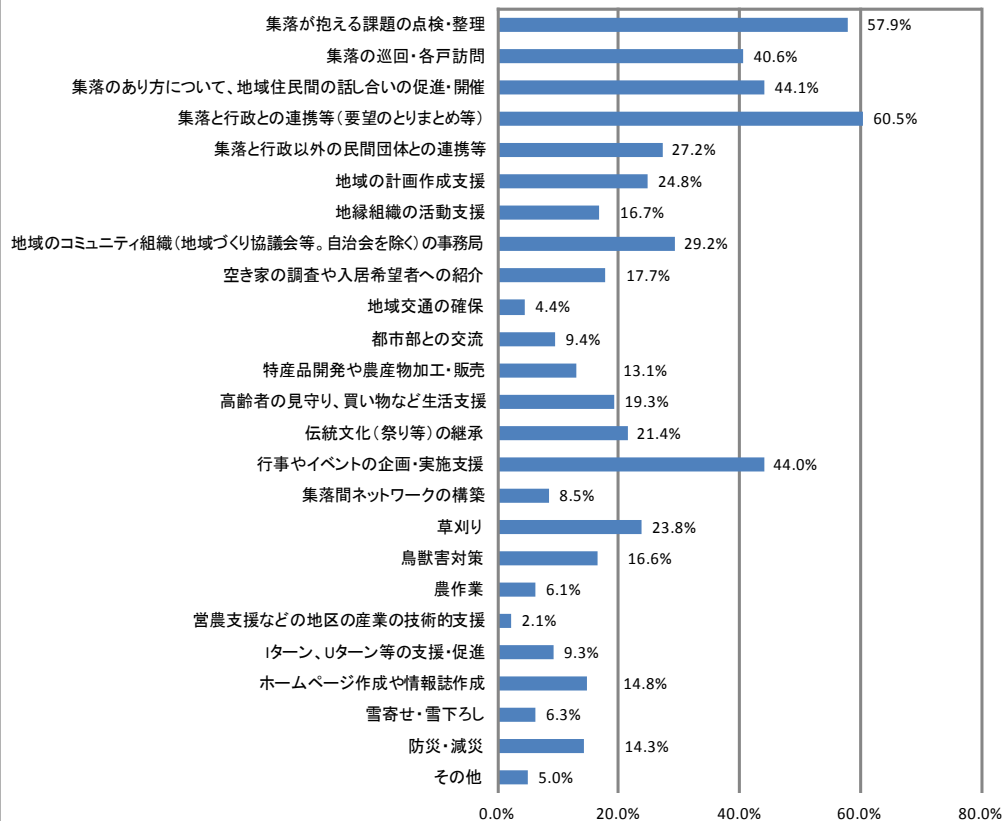
集落支援員の活用実態（活動内容：支援員向け調査票）

■ 集落支援員としての活動内容は主に何ですか。（複数回答可）

「集落と行政との連携等（要望のとりまとめ等）」が最も多く、次いで「集落が抱える課題の点検・整理」が多くなっていた。（回答者数合計1,080人）

■ 左記で回答した活動内容のうち最も重視している活動内容は何ですか。（上位3つ）

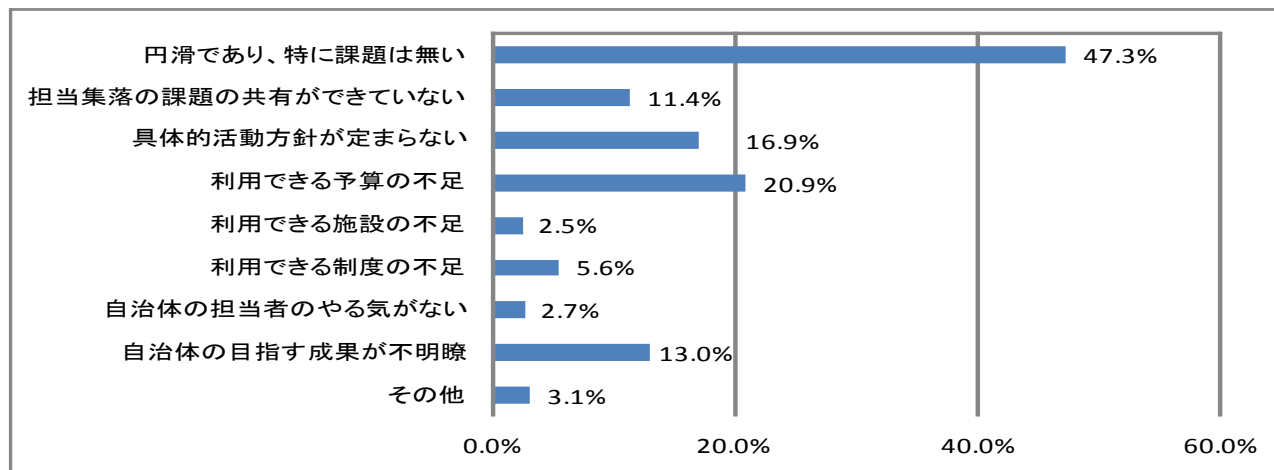
「集落が抱える課題の点検・整理」が最も多く、次いで「集落と行政との連携等（要望のとりまとめ等）」が多く、3番目に「集落の巡回、各戸訪問」が多くなっていた。（回答者数合計1,080人）



集落支援員の活用実態（課題：支援員向け調査票）

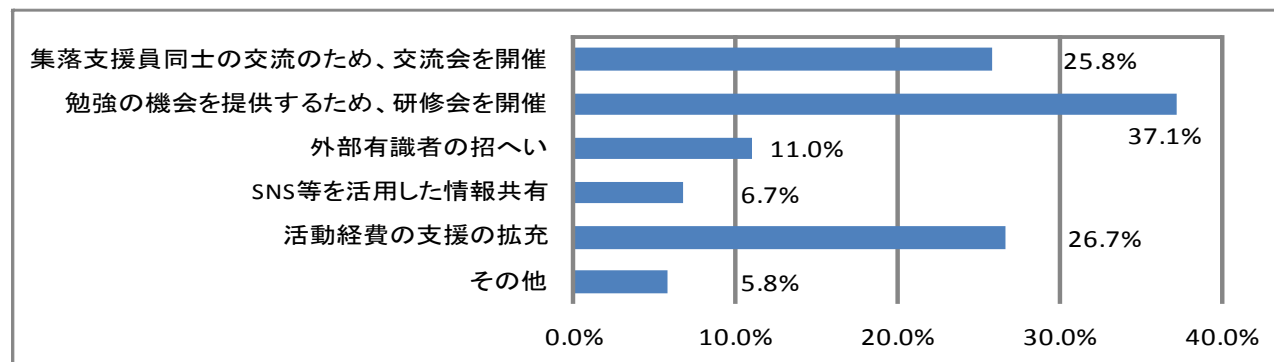
■行政との連携上の課題について当てはまるものを選択してください。（複数回答可）

「円滑であり、特に課題は無い」が最も多く、次いで「利用できる予算の不足」が多くなっていた。（回答者数合計1,080人）



■集落支援員として活動する上で行政に求める支援について教えてください。（複数回答可）

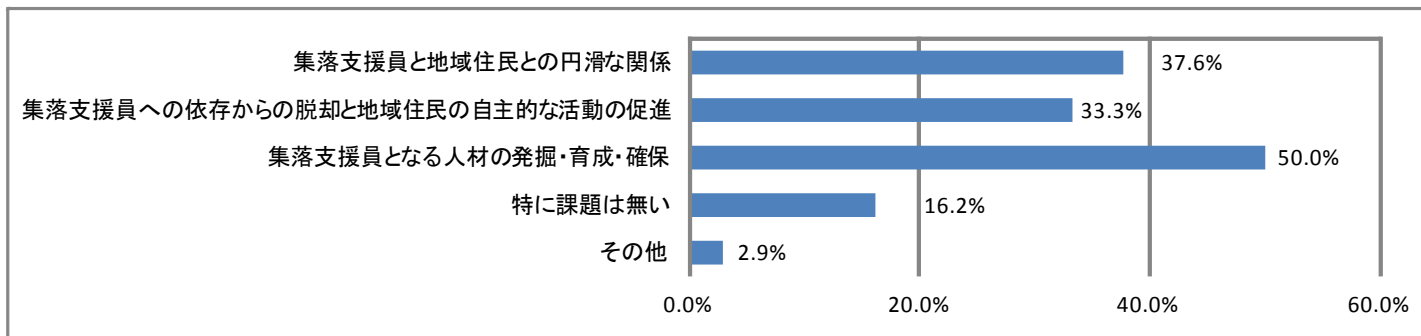
「勉強の機会を提供するため、研修会を開催」が最も多く、次いで「活動経費の支援の拡充」が多くなっていた。（回答者数合計1,080人）



集落支援員の活用実態（課題：自治体向け調査票）

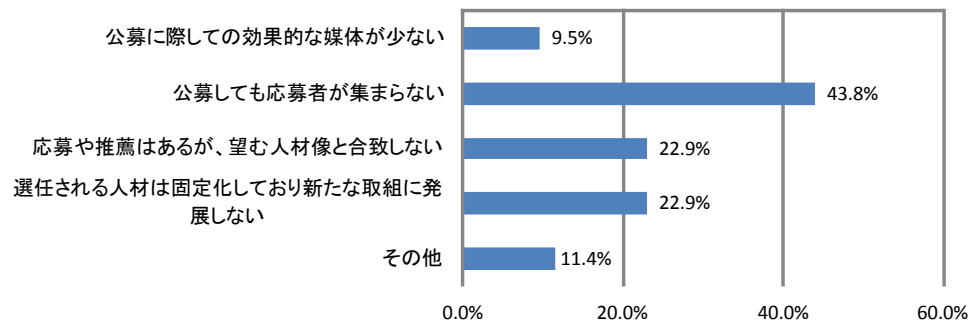
■集落支援員制度を活用する際の課題はありますか。（複数回答可）

「集落支援員となる人材の発掘・育成・確保」が最も多く、次いで「集落支援員と、地域住民との円滑な関係」が多くなっていた。（回答者数合計210人）



■（上記設問で「集落支援員の発掘・人材の発掘・育成・確保」が課題と回答した場合のみ）集落支援員の選任（確保）に係る課題はありますか。（複数回答可）

「公募しても応募者が集まらない」が最も多く、次いで「応募や推薦はあるが、望む人材像と合致しない」と「選任される人材は固定化しており新たな取組に発展しない」が多くなっていた。（回答者数合計105人）



■（上記設問で「集落支援員の発掘・人材の発掘・育成・確保」が課題と回答した場合のみ）集落支援員の育成等に係る課題はありますか。（複数回答可）

「集落支援員の育成や研修に必要なノウハウがない」が最も多く、次いで「担当地域や各支援員のスキルによって異なる対応を求められるため行政の負担が大きい」が多くなっていた。（回答者数合計105人）

